

野毛山動物園

インドライオンの「ラージャー」が死亡しました



野毛山動物園で飼育していたインドライオン「ラージャー」が死亡しましたので、お知らせします。

死亡したインドライオンの「ラージャー」について

- (1) 性別：オス
- (2) 出生日：平成20年2月11日(16歳)
- (3) 死亡日時：令和6年6月30日(日)朝 死亡を確認
- (4) 死因：腎不全
(腎不全はネコでもよく見られる疾患で、年をとるにつれ罹患率も高まる病気です。
ライオンもネコ科動物であり、16歳は大型ネコ科動物としては高齢になります。)
- (5) 経過：定期的に実施している採血により、4年程前から腎機能が低下していることが判明し、治療しておりましたが、昨年からは慢性腎不全の状態となっていました。5月頃には、腎機能の値が更に悪化し治療を継続していましたが、6月30日朝死亡を確認しました。

●ラージャーのプロフィール

平成20年2月11日によこはま動物園 ズーラシアで誕生し、平成26年6月16日に野毛山動物園に来園しました。

来園者からは「野毛山の王子」と呼ばれ、大変親しまれていました。



指定管理者：(公財)横浜市緑の協会

横浜市SDGs認証制度



お問合せ先

野毛山動物園 園長 田村 理恵 Tel 045-231-1307

【参考資料】

■インドライオンについて

和名	インドライオン
学名	<i>Panthera leo persica</i>
分類	食肉目 ネコ科
分布	インド北西部
生態	インド北西部ギルの森林保護区とその周辺にのみ生息。アフリカのライオンと比べると、やや小柄でたてがみが短く尻尾の房毛が長いと言われている。また、下腹部にひだ状の皮膚のたるみがあることも違いの一つである。主に小型の草食動物などを食べる。かつては中近東からインドにかけて広く分布していたが、狩猟や開発による生息域の破壊によって、現在はインドのギル森林保護区やその周辺に約 670 頭が生息しているといわれている。
ワシントン条約 (CITES)	附属書 I 絶滅のおそれのある種で取引による影響を受けている又は受けるおそれのあるもの
国際自然保護連合 (IUCN) レッドリスト	絶滅危惧 IB 類 (EN) 近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
国内飼育頭数	1 園館 3 頭 (オス 2 頭、メス 1 頭) ※令和 6 年 6 月 30 日現在

■野毛山動物園について

入園料：無料

開園時間：9:30～16:30 (入園は 16:00 まで)

休園日：毎週月曜日 (祝・休日の場合は翌日)、12/29～1/1 ※5月、10月は無休

交通：JR 根岸線・横浜市営地下鉄「桜木町」駅下車徒歩 15 分、

または市営バス 89 系統「一本松小学校」行き「野毛山動物園前」下車すぐ

京急線「日ノ出町」駅下車徒歩 10 分

URL：<https://www.hama-midorinokyokai.or.jp/zoo/nogeyama/>

住所：横浜市西区老松町 63-10

問合せ先：045-231-1307